第3種郵便物認可　H20.12.17

タダのもみ殻 エコ燃料に

今金の建設会社、不況で新分野に活路

公共工事減少で受注額が減った建設会社が、建設以外の分野への参入を模索している。檜山支庁今金町今金の「外山建設」（鈴木志宏社長、社員11人）。今年秋、農家から譲り受けたもみ殻を棒状に固めた「エコ燃料」作りに乗り出した。

（村山恵二）

同社の年商は20年ほど前は約10億円だったが、ここ数年は3億円程度。状況を打破したいと、3年ほど前から新分野への参入を研究してきた。最初は解体廃材を燃料にしようとも考えたが、もみ殻なら処理に困る農家から無料でもらえるのではないかと着目した。町によると、町内の農家約420戸の半数、約210戸が稲作をしているという。

同社は広島県のメーカー「トロムソ」から、もみ殻を固形燃料にする機械を購入。同町八束の小屋を借りて工場に改造した。これらに約1千万円かかった。固形燃料は、もみ殻をすりつぶして260～300度に加熱したもの。もみ殻の水分も半減することなどから、もみ殻のまま燃やすより煙が少ない。

鈴木社長によると、もみ殻1キロで700グラムほどの固形燃料ができる。直径約5センチ、長さ約35センチで、2・2～2・4本が灯油1リットル分の熱量に相当するという。もみ殻は社員4人が4トントラック2台で1カ月半かけて農家約30軒から計200トンを集めた。

もみ殻を原料にした固形燃料を手にする外山建設の鈴木社長＝檜山支庁今金町八束

できた燃料は子会社の「ミライ大地」（0137・82・3371）が販売している。1キロあたりの希望小売価格は道内45円、道外50円。「もみ殻はただでもらったし、まずは知ってもらいたい」と、町内では1キロ35円で売っている。暖炉やまきストーブでも燃やせるが、専用ストーブ（税込み7万3500円）を使うと効率がいいという。

鈴木社長は「燃料の2割ぐらいは灰として残るので、何かに再々利用できないかと考えている」と話している。

平成20年12月17日朝日新聞朝刊